



平成30年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年4月26日

上場会社名 株式会社 不二家
 コード番号 2211 URL <https://www.fujiya-peko.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 櫻井 康文
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務人事本部長 (氏名) 中島 清隆
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月11日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-5978-8100

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第1四半期の連結業績(平成30年1月1日～平成30年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第1四半期	26,999	2.0	872	50.7	951	38.4	532	20.9
29年12月期第1四半期	26,466	△0.7	579	△31.1	687	△20.6	440	△0.6

(注) 包括利益 30年12月期第1四半期 472百万円 (33.3%) 29年12月期第1四半期 354百万円 (5.9%)

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
30年12月期第1四半期	20.68	—	—	—
29年12月期第1四半期	17.10	—	—	—

※平成29年7月1日付で、当社普通株式 10 株を1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第1四半期	70,409	66.1	48,187	66.1	—	—
29年12月期	76,349	60.9	48,101	60.9	—	—

(参考) 自己資本 30年12月期第1四半期 46,535百万円 29年12月期 46,505百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
29年12月期	—	0.00	—	15.00	15.00
30年12月期	—	—	—	—	—
30年12月期(予想)	—	0.00	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
第2四半期(累計)	52,000	1.0	600	199.1	700	117.2	200	—	7.76
通期	107,000	1.0	2,300	103.8	2,500	71.2	1,300	△92.0	50.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年12月期1Q	25,784,659 株	29年12月期	25,784,659 株
-----------	--------------	---------	--------------

② 期末自己株式数

30年12月期1Q	9,329 株	29年12月期	9,275 株
-----------	---------	---------	---------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年12月期1Q	25,775,344 株	29年12月期1Q	25,775,921 株
-----------	--------------	-----------	--------------

※平成29年7月1日付で、当社普通株式 10 株を1株の割合で株式併合を行っております。期中平均株式数につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、適正な情報に基づき作成したものでありますが、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。詳細は添付資料4ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成30年1月1日～3月31日）のわが国の経済は、企業収益の改善を背景に設備投資が増加するなど、景気は緩やかに回復しております。

当社グループが属する食品業界においては、雇用・所得環境の改善により個人消費は持ち直しているものの、食料品やガソリン価格の値上げの動きから、消費者の節約志向は根強く、経営環境は依然として厳しいものとなっております。

このような環境下にあつて当社グループは、お客様の満足を第一に考え、新製品開発と既存製品の品質改善に絶え間なく取り組み、売上増を目指すとともに、生産性の向上と経費管理の強化を進め、利益改善につとめてまいりました。

洋菓子事業においてはチェーン店の売上確保を目指すとともに、コンビニエンスストアをはじめとする広域流通企業向けの売上拡大をはかりました。製菓事業においては主力生産ラインの稼働率向上に繋がる主力ブランドの製品開発と販売を積極的に行い、好調なチョコレート製品を中心に売上の拡大と生産性を向上させることができました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は269億99百万円（対前年同期比102.0%）、営業利益は8億72百万円（対前年同期比150.7%）、経常利益は9億51百万円（対前年同期比138.4%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億32百万円（対前年同期比120.9%）となりました。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第1四半期連結累計期間		前第1四半期連結累計期間		対前年同期比	増減
		平成30年1月1日から平成30年3月31日まで		平成29年1月1日から平成29年3月31日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
洋菓子事業	洋菓子	百万円 6,990	% 25.9	百万円 7,527	% 28.5	% 92.9	百万円 △537
	レストラン	1,541	5.7	1,648	6.2	93.5	△106
	計	8,531	31.6	9,176	34.7	93.0	△644
製菓事業	菓子	16,548	61.3	15,723	59.4	105.2	825
	飲料	1,319	4.9	1,097	4.1	120.3	222
	計	17,868	66.2	16,820	63.5	106.2	1,048
その他		598	2.2	470	1.8	127.4	128
合計		26,999	100.0	26,466	100.0	102.0	532

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

<洋菓子事業>

当社単体の洋菓子においては、お客様の満足を第一に考えた製品の品質と店舗運営の質の改善を進めております。チェーン店については、来店するお客様を飽きさせない品揃えと絶え間ない販促活動を継続しました。製品面では、旬のあまおう苺を使用した「あまおう苺シリーズ」、ペコちゃんや㈱サンリオの人気キャラクターをプリントした「マカロン（ペコ×サンリオキャラクター）」を発売、さらに、店内製造機能を活用した作りたて製品を販売し来店客の増加をはかるなど、チェーン店の売上確保につとめました。店舗面では店内製造機能を重視した店舗、少人数でのオペレーションが可能な小規模店舗の開発を行う一方、後継者不在店舗や不採算店舗の閉鎖を進めました。なお、当第1四半期連結会計期間末の営業店舗数は前年同期差28店舗減の906店となりました。

広域流通企業との取り組みについては、生産性の高い製造ラインを活用した4個入り製品や「LOOK4プチャルト」などを積極的に提案した結果、取引拡大をはかることができました。また、親会社の大型キャンペーンである「ヤマザキ春のパンまつり」に参加したことも寄与し、売上は着実に増加しました。しかしながら、チェーン店の売上減少を回復するまでには至らず、単体の洋菓子は、前年同期の売上を下回りました。なお、経費面では、生産設備の能力増強・省人化による生産効率向上や物流の効率化を進めました。

㈱スイートガーデンについては、同社チェーン店の売上減やコンビニエンスストアでの製品取り扱いが減少したことから厳しい業績となりましたが、不二家店舗や広域流通企業等への製品の提案・販売にも積極的に取り組むとともに、原価管理、人件費管理の強化につとめております。

㈱ダロワイヨジャポンについては、当社が取得した商標権を活用し、主要都市百貨店や高級食品スーパーとの取引開始に向け商談を進めております。今期に入り高級洋菓子の開発や売上が見込める駅ビルへの新規出店を行いました。天候不順や主力店舗の閉鎖が店舗売上に影響しました。

この結果、洋菓子類の売上高は、69億90百万円（対前年同期比92.9%）となりました。

レストランについては、ポール看板等店舗視認性の向上や、お客様の健康志向に対応し野菜サラダを組み合わせたプレート料理などを加えた新メニューへ刷新するなどの客数増加策により、既存店売上は前年同期を上回りました。また、渋谷店の高級鉄板焼店への業態変更を実施し、売上向上を図っております。しかしながら、不採算店等の閉鎖に伴う店舗数の減少などにより売上高は15億41百万円（対前年同期比93.5%）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、85億31百万円（対前年同期比93.0%）となりました。

<製菓事業>

当社単体の菓子においては、主要ブランドにおいて新製品開発を推進し、売上伸長をはかると同時に主力生産ラインの稼働促進により生産性の向上をはかりました。製品面では、『健康・グルメ』をテーマに、売れ筋の大袋タイプでナッツやカカオの健康イメージを訴求した製品の拡販に取り組み、新製品として、前期に好評を博した「ルック4」のファミリーパックを発売し、好調な売上となりました。また、原料にこだわり宇治抹茶を使用した新製品を、ブランドを横断して積極的に投入したほか、発売50周年を迎えた「ホームパイ」においては、オリーブオイルを使用して健康感を高める改善を行いました。さらに、ヤマザキビスケット㈱との新規コラボレーションによる「チップスターチョコレート」の発売や、イースターなど歳時における専用製品の早期販売も売上の伸長に貢献しております。利益面では、主力生産ラインの稼働率が向上、生産設備の更新もあり収益性を向上することができました。

不二家（杭州）食品有限公司については、中国における流通市場の変化に対応すべく販売代理店との連携強化をはかるとともに、中国で拡大するインターネット通販市場において好評を博している容器入りポップキャンディのさらなる拡販につとめた結果、売上は前年同期を上回ることができました。

この結果、菓子の売上高は、165億48百万円（対前年同期比105.2%）となりました。

飲料については、主力製品である「ネクターピーチ350g缶」「レモンスカッシュ350ml缶」が順調に売上を伸ばしたことに加え、新製品「ネクターピーチほんのりさくらの香り」や冬季向けの「ルックチョコレートドリンクストロベリー」の発売、ペットボトル製品や紙容器製品のリニューアルの効果もあり、売上高は13億19百万円（対前年同期比120.3%）と前年同期の実績を上回りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、178億68百万円（対前年同期比106.2%）となりました。

<その他>

その他事業は、通販・キャラクター事業部のグッズ販売事業・ライセンス事業及び㈱不二家システムセンターの受注請負、データ入力サービスなどの事務受託業務であり、売上高は、5億98百万円（対前年同期比127.4%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は369億79百万円で、主に現金及び預金の減により前連結会計年度末に比べ66億69百万円減少いたしました。固定資産は334億30百万円で、主に有形固定資産の増により、前連結会計年度末に比べ7億29百万円の増加となりました。

この結果、総資産は704億9百万円で前連結会計年度末に比べ59億40百万円減少いたしました。

また、流動負債は168億19百万円で、主に未払法人税等の減により前連結会計年度末に比べ56億70百万円減少いたしました。固定負債は54億2百万円で、主に長期借入金の返済や社債の償還等により前連結会計年度末に比べ3億54百万円減少いたしました。

この結果、負債は合計222億22百万円で、前連結会計年度末に比べ60億25百万円減少いたしました。

純資産は481億87百万円で、主に利益剰余金の増により前連結会計年度末に比べ85百万円増加いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年12月期の業績予想につきましては、平成30年2月13日に発表した予想の変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,736	20,732
受取手形及び売掛金	13,394	10,850
商品及び製品	3,306	2,544
仕掛品	309	307
原材料及び貯蔵品	2,023	1,754
繰延税金資産	391	350
その他	765	740
貸倒引当金	△278	△300
流動資産合計	43,648	36,979
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,027	6,596
機械装置及び運搬具（純額）	8,966	8,954
土地	3,656	3,656
リース資産（純額）	1,017	977
その他（純額）	1,063	1,336
有形固定資産合計	20,731	21,520
無形固定資産		
その他	2,291	2,360
無形固定資産合計	2,291	2,360
投資その他の資産		
投資有価証券	5,930	5,856
繰延税金資産	101	69
敷金及び保証金	2,450	2,412
退職給付に係る資産	339	340
その他	1,063	1,078
貸倒引当金	△207	△208
投資その他の資産合計	9,678	9,549
固定資産合計	32,701	33,430
資産合計	76,349	70,409

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,287	6,081
短期借入金	2,164	1,079
1年内償還予定の社債	140	140
リース債務	368	356
未払金	5,476	4,668
未払法人税等	3,263	278
賞与引当金	312	680
店舗閉鎖損失引当金	60	32
その他	3,418	3,501
流動負債合計	22,490	16,819
固定負債		
社債	370	300
長期借入金	1,426	1,190
リース債務	868	818
繰延税金負債	80	76
退職給付に係る負債	2,065	2,084
長期末払金	23	23
その他	923	908
固定負債合計	5,756	5,402
負債合計	28,247	22,222
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	4,065	4,065
利益剰余金	23,299	23,445
自己株式	△17	△17
株主資本合計	45,627	45,773
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	183	164
繰延ヘッジ損益	-	△5
為替換算調整勘定	300	221
退職給付に係る調整累計額	394	381
その他の包括利益累計額合計	877	761
非支配株主持分	1,596	1,651
純資産合計	48,101	48,187
負債純資産合計	76,349	70,409

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)
売上高	26,466	26,999
売上原価	13,802	14,204
売上総利益	12,664	12,794
販売費及び一般管理費	12,085	11,922
営業利益	579	872
営業外収益		
受取利息	8	7
受取配当金	20	25
持分法による投資利益	26	49
受取奨励金	42	-
その他	44	17
営業外収益合計	141	100
営業外費用		
支払利息	19	9
為替差損	3	2
その他	10	9
営業外費用合計	33	21
経常利益	687	951
特別利益		
固定資産売却益	-	1
投資有価証券売却益	12	-
特別利益合計	12	1
特別損失		
固定資産廃棄損	10	47
特別損失合計	10	47
税金等調整前四半期純利益	689	905
法人税、住民税及び事業税	217	216
法人税等調整額	△36	69
法人税等合計	180	286
四半期純利益	508	619
非支配株主に帰属する四半期純利益	68	86
親会社株主に帰属する四半期純利益	440	532

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)
四半期純利益	508	619
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13	△5
為替換算調整勘定	△175	△110
退職給付に係る調整額	30	△12
持分法適用会社に対する持分相当額	3	△18
その他の包括利益合計	△154	△147
四半期包括利益	354	472
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	335	417
非支配株主に係る四半期包括利益	18	55

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	9,176	16,820	25,996	470	26,466	—	26,466
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	193	193	164	357	△357	—
計	9,176	17,013	26,189	634	26,824	△357	26,466
セグメント損益(△は損失)	△192	1,520	1,327	55	1,382	△803	579

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△803百万円には、固定資産減価償却費の調整額1百万円、のれんの償却費の調整額△13百万円、その他の調整額2百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△793百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,531	17,868	26,400	598	26,999	—	26,999
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	161	161	151	312	△312	—
計	8,531	18,030	26,561	749	27,311	△312	26,999
セグメント損益(△は損失)	△244	1,784	1,539	132	1,672	△799	872

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△799百万円には、固定資産減価償却費の調整額0百万円、その他の調整額△0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△800百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。